

作家・富良野自然塾塾長

倉本

KURAMOTO  
Soh聡  
さんに伺いました聞き手  
苗村 由美  
編集委員30年以上富良野で生活し、2006年より自然塾を設立して塾長を務める  
倉本聡さんに、自然塾で目指す環境教育と土木に対する思いについてお話を伺った。2009年8月10日(月)  
倉本聡氏アトリエ

## 五感を働かせる

## 「第一次情報」を環境教育に

——自然塾設立のきっかけを教えてくださいませんか。

**倉本**——理由は二つで、一つは富良野プリンスホテルゴルフコースが閉鎖されたことです。僕は30年以上富良野にいて、昔ここが森だったことも知っていたので、ホテルから話を聞いたときに森に戻したいと思いました。もう一つは、文部科学省の環境教育推進法に関するシンポジウムに参加したことです。当時、日本でも環境教育を始めないといけないといわれていましたが、文科省も具体的にどうすればいいかまだわからない状態でした。「じゃあ、ぼくたちでやって

みよう」ということで始めました。

——自然塾で「シナリオ」と呼ばれている環境プログラムは何を参考にしているのでしょうか。

**倉本**——自然塾のプログラムの「裸足の道」は十数年前にドイツで環境教育を勉強したとき、近いものを見ましたね。その他については、独自に作りました。

今、日本の教育は入試のための教育になっていきますよね。知識ばかりで、体感や体験がないので、心に落ちてこない。環境教育を始めるとき、来てくれた人みんなの心に落とすためにはどうしたらいいか、1年半ぐらい模索しました。

環境という学問は、多岐の分野にわたっていますから、あらゆる学問に環境をちりばめないといけない。たとえば、ドイツでは算数の「5ひく3」を教えるときに「ゴミ袋が五つあって回収車が三つ持つて行った。残りは何？」と教えるそう

です。はじめに聞いたとき僕はピンとこなかった。でも、考えてみると、日本だと、「銀行に5万円あつて……」と教えますよね。僕の時代には、「やぶの中に敵兵が5人いて、3人殺した。残りは何？」という教え方だった。……そうか、直接見たり、触ったりという、五感を働かせて得る情報、「第一次情報」で環境教育をしていくことが重要なんだと気付いたんです。実は、「第一次情報」の大切さは20年以上前から思っていることで、『北の国から』もこの考えがベースにありました。

僕は、森は木材のためではなく葉っぱのためにあると思ってるんです。僕らが生きていくうえで必要不可欠な水と空気を、葉っぱがくれる。木や葉っぱの種類に関する知識を得ることも大切ですが、葉っぱがもっている根本の意味を、五感で感じる環境教育プログラムを自然塾では目指しています。

## 石油がなくなりつつある今、 土木は何をすべきか

——これからの土木に望むことはありますか。また、土木界にメッセージをお願いします。

**倉本**——田中角栄氏の『日本列島改造論』はあの当時としては優れていたと思います。日本中のネットワークを良くし、副次的に土木業界や鉄鋼などを刺激して、GNPを上げ、そこに公共事業を落としこんだ。ただその一方で、自然を壊してしまい、土木＝自然破壊という意識を国民が抱く引き金をつくってしまいました。



### 倉本 聡(くらもと・そう)さん プロフィール

1935年東京都出身。1959年東京大学文学部美学科卒業。その後、シナリオ作家として主にテレビドラマを書く。1977年北海道富良野市に移住。2006年閉鎖されたゴルフ場に、植樹と環境教育のための「SMBC環境プログラムNPO法人C・C・C富良野自然塾」を設立・主宰。代表作は「赤ひげ」、「北の国から」、「風のガーデン」など多数。

した。

これからの土木は大局から考えていかななくてはならないと思います。地球上に残された石油は富士山の容積の7分の1といわれています。40年後には石油がなくなるといって今、土木は何をすべきかを考えてほしい。ほくは、開発ではなくて、自然の回復のための土木が必要だと思っています。開発事業より回復事業のほうがお金がかかるから、土木の仕事はもつと多くなるはずですが、道路やダム、トンネルをつくる土木だけでは足りない、自然を回復する土木を増やしてほしいと思っています。

## 「自然の時間」と「人間の時間」の 時間軸を考えることが大事

**倉本**——今は、どんな仕事も早くて安いことが良しとされています。言い換えれば、早くて安くはないとお金にならない。でも、早ければすべてにとつていいというものじゃない。たとえば、アメリカと日本の間を結ぶコンテナ船は通常7日間かかるのを8日間にしたら、石油を30%節約できるといいます。富良野塾のアトリエなども自分たちがつくったら、時間はかかったけれども、安くできました。

時間軸を考えることはとても大事だと思います。昔、木を斧で切ったところは、一つの山の木を切るのに何年もかかって、全部切り終わる頃には次の世代の木が生えてきた。でも、チェーンソーだとそうはいかない。スピードアップすることで、「自然の時間」から「人間の時間」がどんどん離れているんです。石油は2億年かけてつくられたけど、人間はそれをとっても短い期間で使い切ろうとしている。その時間の差をどうしていくかをゆつくりと時間をかけて、頭をなかに切り替えないといけないと、ほくは思うんです。きっと大きな発想の転換が必要でしょう。土木の人たちには「自然の時間」と「人間の時間」の時間軸を念頭に置きながら、「環境のためにならないことは、金になってもやらないし、環境のための仕事はたくさんあるんだ」という気持ちを持ってほしいと思います。